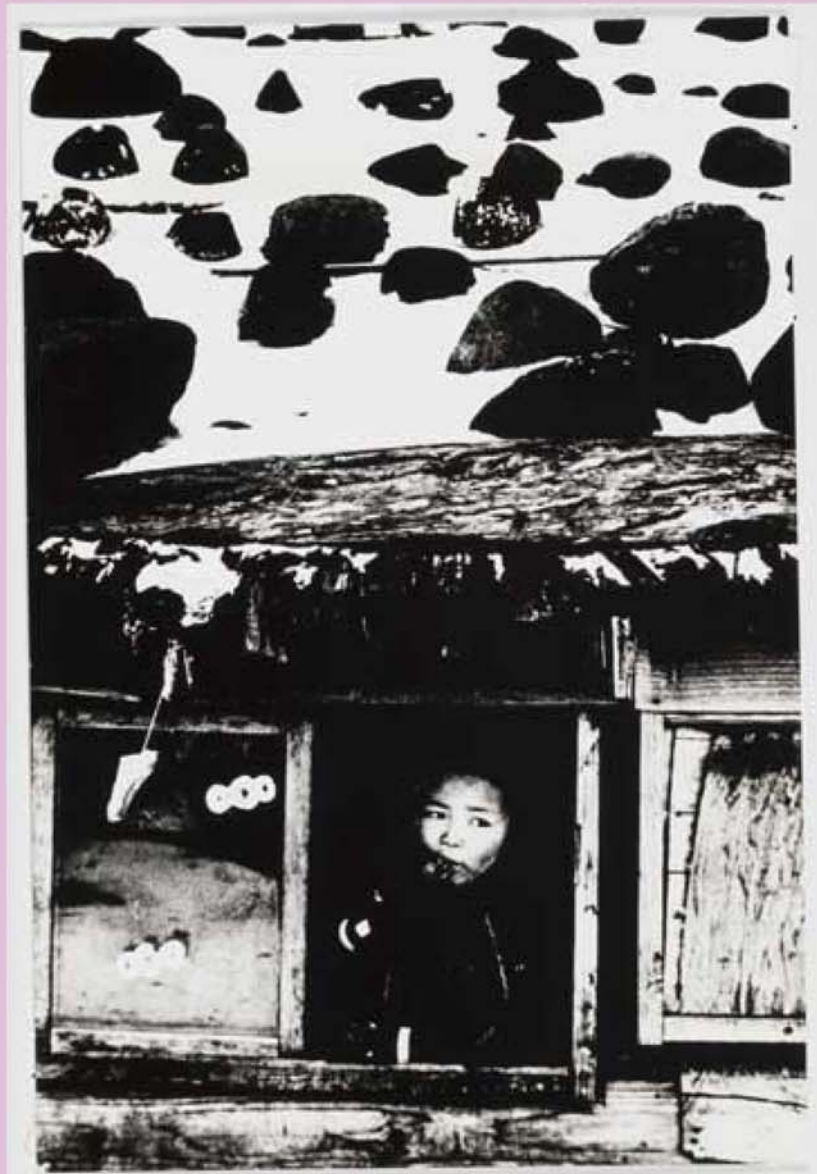


# Aomori Art Stroller

あおもリアート散歩人

2009/1-3  
002  
FREE PAPER/無料



小島一郎  
下北郡大間町/1961年頃  
24.2×16.7cm/ゼラチン・シルバー・プリント/個人蔵

## 「あおもりのふゆ」をみつける。

青森市出身の写真家、小島一郎。

小島は、寒村青森に生きる人々への深い共感を力強く焼き付け、鮮烈な足跡を残しました。

青森はこれから、一番厳しい季節、冬を迎えます。

しかしそれゆえに、ほかでは見られない、青森独特の風景、心温まる風景があります。

今回はアートの現場から、「あおもりのふゆ」をさがしてみましよう。



Aomori Art Stroller



# 特集＝「あおもりのふゆ」をみつける。

厳しい寒さ、そして深い雪は、青森独特の風景をつくります。  
寒さを凌ぐために人々が工夫を積み重ねてつくられたものたち。

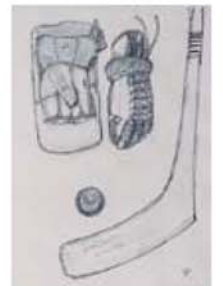
暗い気持ちを晴らすような冬の遊び。五穀豊穡を祈り、小正月に行われる祭り…。

青森のアーティストたちは、これらがあるあおもりの風景を、作品として残しました。

「あおもりのふゆ」のかけらをひとつひとつ見つけていくことで、わたしたちは青森をあらためて見直すきっかけになるかもしれません。



棟方志功〈初冬風景図〉/1924年/油彩/棟方志功記念館蔵  
冬の初めの郊外の風景を描いた作品。青森市の「ドン山」と呼ばれた午砲台付近を描いたものではないかとされている。棟方志功が油絵画家を目指して上京する前、21歳のときに青森で描いたもので、当時の棟方の作風をうかがうことができる数少ない貴重な作品である。



鷹山宇一〈編み物をする女(仮題)〉/1927年/鷹山宇一記念美術館寄託  
二科会に重鎮をなし「花と蝶を描く洋画家」として広く知られる鷹山宇一。意外にも、1930年の二科展初入選作はシュルレアリスム風の木版画で、画家としての出発点に於いて専らにしていたのが「木版画」であったことを、知る人は少ない。その処女作が、鷹山のふるさと・七戸に遺されていた。画家を志し、念願の上京を果たした1927年に制作された〈編み物をする女(仮題)〉である。「絶版」という文字が記されているが、後に続く木版画全てがそうであったように、鷹山は気に入った刷り1枚を残して、版木も全て壊してしまうという徹底ぶりであった。絶版とはそういった訳で、「鷹山イズム」は処女作から確固として、綿々と貫かれている。本格的な冬を控えた12月、日常の何気ない風景の一コマ、彼女の編み物は、大切な「誰か」のためのものであろうか？木版ならではの風合いと相俟って、作品はあたたかな空気に包まれ、そこには、優しい時間が流れている。



- 1: 工藤甲人〈冬ともえ〉/1973年/紙本着色/弘前市立博物館蔵…甲人画伯が雪穴に落ちた経験から描かれたといわれる作品。
- 2: 関野準一郎〈津軽金木〉/1976年/紙・木版/青森県立美術館蔵…関野準一郎は太宰治の肖像も制作しているが、これは太宰の生家の建物が「斜陽館」として旅館となっていた時期の作品。
- 3: 阿部合成〈馬そりにのる母子〉/1972年/板・油彩/青森県立美術館蔵…阿部合成最晩年の作品。雪の上を疾駆する馬そりがスピード感ある筆致で表現されている。
- 4: 樋口猛彦〈津軽の子供たち〉/1939年/水彩/八戸市美術館蔵
- 5: 渡辺貞一〈津軽雪景A〉/1980年/墨画/八戸市美術館蔵…雪原の一本道を足跡を残しながら歩く人、水墨で描かれたこの作品には小島一郎の切りとった世界と同じ郷愁が漂う。
- 6: 石橋宏一郎〈冬の街〉/1988年/油彩/八戸市美術館蔵
- 7: 樋口猛彦〈アイスホッケー用具〉/1976年/ペン/八戸市美術館蔵…八戸の冬の象徴「えんぶり」と「スケート」。(※4・5は津軽の冬、6・7は南部の冬の情景)
- 8: 鈴木理策〈青森県立美術館〉/2005～06年…鈴木理策による〈青森県立美術館〉のうちの1点。奈良美智の〈あおもり犬〉を背後から捉えた一枚。
- 9: 奈良美智〈AtoZ Memorial Dog〉/2007年/土淵川吉野町緑地…NPO法人harappaが、AtoZ展の開催と成功を記念し、協力してくれた地域の方々に感謝を込めて、収益金により制作・設置し、弘前市に寄贈した。はじめての冬の写真。全長約4.5m、高さ3m。
- 10: ポール・セトル〈無題/デッド・スノー・ワールド・システム〉/2008年/十和田市現代美術館  
北歐・ノルウェー出身の作家ならではの、オーロラをモチーフとした映像や、雪のきらめきを思わせるミラーボールの反射光など、冬を喚起させる作品。
- 11: 国際芸術センター青森…ここは動物たちの交差点。野鳥やウサギ、テンなどの足跡が行き交う。 12: 家の雪囲い、13: 冬の集落風景、14 カッチョ(津軽の防雪柵)/1975年頃 西北地方/青森県立郷土館蔵
- 15: 石牽き/弘前市立博物館蔵…昭和初期撮影。弘前市の国指定名勝「瑞楽園」増庭のため、庭石をソリに乗せて運んでいる。 16: フラグツ、17: フミダワラ(雪を踏み固めて道をつける道具)、
- 18: 外出用雪ゲタ、19: 竹スキー、20: ヨチソリ(薪などを運ぶ道具)、21: ツグリ/青森県立郷土館蔵 22: ペンジャ/弘前市立博物館蔵…固雪の上を滑る下駄スケート。県立郷土館にも所蔵。



# Recommend

サンボビトがおすすめする、県内アートめぐりの旅 Vol.2  
～冬を満喫！南部のアート&グルメツアー／2泊3日～

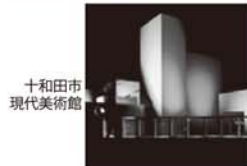
八戸市を中心とする青森県の東南部のエリアを南部（なんぶ）地方といいます。単に「南の方」というわけではなく、旧藩名としての「旧南部藩」の南部を指します（本来は岩手県なども含むもう少し広いエリアを指す）。ここには、青森市や弘前市のある県西部の津軽地方、むつ半島や恐山のある下北地方などは、また一味違う文化圏が広がっています。南部地方は太平洋側に面しており県内でも比較的雪が少ないので、この冬にぜひアートめぐりにでかけてみませんか。関西方面（伊丹空港）から飛行機で三沢空港に降り立っての2泊3日の行程としてみましたが、関東・東北・青森県内その他からでも、移動にかかる時間やおすすめスポット情報などをご参考に、旅の計画をしてみたいはいかがでしょうか。

- 12:20 伊丹空港発 (JAL2167)  
13:50 三沢空港着  
14:00 レンタカーを借りて空港を出発  
15:00 七戸町・鷹山宇一記念美術館着、鑑賞  
16:00 国道4号を南下し十和田市内へ  
16:30 十和田市現代美術館着、この日は外から屋外照明作品・高橋匡太〈いろとりどりのかけら〉(日没～21時まで) および建築を堪能、ドライブしながら官庁街通り(日本の道百選)を通り、十和田湖方面へ  
18:30 十和田湖周辺の宿へ、1泊目(温泉も有) ■問:十和田市観光協会 0176-24-3006  
※1/30-2/22「十和田湖冬物語」開催中(グルメ、花火、津軽三味線などイベント多数)

1日目



鷹山宇一  
記念美術館



十和田市  
現代美術館



- 8:30 十和田湖を出発  
9:30 道の駅・奥入瀬ろまんパーク着、休憩と買い物(地ビール、十和田湖和牛、にんにくなど)  
10:30 十和田市現代美術館着、鑑賞(カフェではillyのコーヒーを)  
12:00 ラunchは十和田名物のバラ焼きや馬肉料理をどうぞ  
14:00 道の駅とわだにて南部裂織体験(45分1500円 ■問:0176-28-3790)、終了後三沢へ向かう  
16:00 三沢市・寺山修司記念館着、鑑賞  
三沢市内では新名物の「ほっき丼(冬季限定)」もご賞味下さい ■問:三沢市観光協会 0176-59-2311  
17:00 同発、八戸へ向かう、太平洋を見ながらドライブも  
18:00 八戸着、夜は昭和テイストの横丁めぐり、「B-1グランプリ」2年連続銀賞の八戸せんべい汁など、2泊目

2日目



冬が旬の  
ほっき貝



寺山修司  
記念館



- 5:00 早起きのかたは、湊朝市&銭湯めぐり、種差海岸散策など(東山魁夷〈道〉のモデルの場所あり)  
10:00 八戸市美術館鑑賞  
※2/17-20は市内で「八戸えんぶり」開催 ■問:八戸観光コンベンション協会 0178-41-1661  
11:30 八食センター着(巨大マーケット&グルメスポット、昼食とお土産)  
脂ののった八戸前沖さば、水揚げ日本一のイカ、いちご煮、ホヤ、ほっき貝など  
13:00 同発、三沢空港へ向かう  
14:30 三沢空港発(JAL2166)  
16:15 伊丹空港着、お疲れさまでした

3日目



B-1でもおなじみ  
八戸せんべい汁



国の重要無形  
民俗文化財  
八戸えんぶり

# Free Column

「小島一郎 -北を撮る-」展によせて～都市を見返すまなざし～

青森県立美術館の新年第一弾の企画展となる「小島一郎 -北を撮る-」展。大正13(1924)年、青森市に生まれた小島一郎は、昭和30年代の約10年間、主に郷土、青森の風景や人々を撮り続け、39歳の若さで亡くなった夭逝の写真家です。故郷に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、早すぎる死の後、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、近年その評価は高まり続けています。遺族に残された未公開品を多数含むオリジナルプリント、アルバム、フィルムをもとに約300点の作品や資料によって構成するこの展覧会は、写真家の初の本格的回顧展となります。

近年、「Always 三日月の夕日」の映画のヒットなどにより、昭和30年代ブームというのがあったのは記憶に新しいところですが、小島が活躍したのは日本が高度経済成長を迎えるちょうどその時期にあたっています。こうした時代背景を受けて、本展のテーマの一つに挙げられるのは都市から地方に向けられるまなざしの問題です。

今号の表紙に掲載された1点は、小島が1961年頃に下北地方で撮った写真です。小島の下北のシリーズの特徴は、粗い粒子と白黒の激しいコントラストの画面です。観る者を不安に陥れるエッジの効いた表現には、下北の乾いた冬の寒さの実感とともに、地方の寒村を衰弱させながら押し進められていく日本の近代化に対する強い抵抗の意志が込められています。

小島がこの世を去ってから40年以上経ちますが、地方はいまだに都市から一方的にまなざされ、そのまなざしを織り込みながら物事を判断することに、私たちは慣らされてしまっているようです。私たちが暮らすこの場所から新しい価値を立ち上げようとする時、小島が写真で示した都市を見返すまなざしに、今、得るべきものは大きいように思えてなりません。

高橋しげみ／青森県立美術館学芸員



小島一郎

下北郡大間町/1961年

24.1×16.3cm/ゼラチン・シルバー・プリント/個人蔵

「小島一郎 -北を撮る-」展は、  
2009年1月10日(土)から3月8日(日)まで、青森県立美術館にて開催。



●常設展示〈冬のコレクション展〉 1/1(木・祝)-4/5(日)

●企画展示〈小島一郎-北を撮る- 戦後の青森が生んだ写真界の「ミレ」〉 1/10(土)-3/8(日) 企画展観覧料:一般800円/大・高400円/中・小200円

●パフォーミングアーツ〈ダンスアレコ青森Lab #3〜フラメンコ〜〉 1/31(土)2/1(日) \*料金など、詳細はホームページまたは電話にてお問い合わせください。

〈定期映画上映会〉 1/17(土)『感星ソラリス』 2/14(土)『鏡』 3/7(土)『ストーカー』

\*3作品ともアンドレイ・タルコフスキ監督作品/料金は無料。上映時間はホームページまたは電話にてお問い合わせください。

〈12人のピアニストによるコンサート+α〉

1/17(土)佐藤慎悟・由井暁子『ヴィルトゥオーソの響きもう一つのピアニスト』 曲目: M.ラヴェル「スペイン狂詩曲」他

2/21(土)前田美術『ドビュッシーの光と陰と色彩と』 曲目: C.ドビュッシー「前奏曲集 第一巻」他

2/28(土)浅野清、矢野吉晴他『+αコンサート』 曲目: G.ガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」他

3/14(土)堀内亮『浪漫の香りを音にのせて』 曲目: F.シューベルト「ピアノソナタ 第13番短調 D958 (遺作)」他

\*各回とも19:00開演。料金は下記のとおり(ペア券は一般2名様でご利用いただけます)。

料金:ペア券2,500(3,000)円/一般1,500(1,800)円/大・高1,000円/中・小800円( )は当日料金。2/28のみ他回の券示で割引。

●ワークショップ等  
 きむらだいすけワークショップ ちぎって、作ろう!青い森と海のいきものたち 2/1(日)10:00-15:00  
 〈建築ワークショップ 窓のあるお家〜カーテンハウスを造ろう〉 3/1(日)13:00-17:00  
 〈オープンアトリエ (こども向けワークショップ)〉  
 1/18(日)13:00-15:00「あおり犬とともだちになろう」 2/15(日)13:00-16:00「文字をつくる」 3/8(日)13:00-16:00「大きな絵をかこう」

〈養虫山人と青森〜放浪の画家が描いた明治の青森〜〉  
 明治期の青森県を歩き、豊かな景観や多くの考古遺物を作品に残した  
 放浪の画家養虫山人の作品を紹介します。

11/22(土)-1/18(日) 館内工事のため臨時休館 2/1(日)-2/28(土) 〈サムライ・チャンバラ博覧会〉  
 弘前藩・八戸藩の武士が用いた  
 武具等を展示します。  
 日曜日には公開演武や  
 体験コーナーなどもあります。  
 3/3(火)-5/6(水)

冬の芸術講座2009「アート+ことば」 1/17(土)-3/22(日)

〈版画講座〉 ◆銅版画でオリジナル・ポストカードをつくろう 1/17(土)・18(日)  
 ◆大切な人に銅版画で作ったメッセージカードを送ろう 2/7(土)・8(日)  
 ◆シルクスクリーンで多色版画に挑戦してみよう 3/21(土)・22(日)  
 〈音楽講座〉 ◆Amf公開講座(無料) ①2008/12/20(土) ②2009/1/24(土) ③2/21(土) ④3/21(土)  
 ◆岡田照幸さんのよるピアノコンサート 3/21(土)  
 〈美術講座〉 ◆権力と美術-アレクサンドロス大王の歴史とその美術- 3月7日(土) ◆アール・ブリュットの誕生とその背景 3/8(日)  
 〈木工〉 ◆「作る・道具と手足」講師:菅沼緑 1/31(土)・2/1(日)  
 〈ダンス〉 ◆「ことばで踊る、ことばを踊る」講師:森下真樹 3/28(土) ◆森下真樹ダンス公演「東京コシツ」  
 〈ディレクターズ・トーク〉 ◆対談×山内ゆり子「70年代、パリの情景」 2/14(土) ◆パフォーミングと自然 3/14(土)  
 〈展覧会〉 ◆ACAC滞在アーティスト作品展 1/4(日)-25(日) ◆菅沼緑展 2/1(日)-22(日) ◆青森市所蔵作品「山内ゆり子展」 2/1(日)-3/15(日)  
 ◆Vision of Aomori vol.5 安田美代展「陶の椅子-1脚と1編の物語」 2/28(土)-3/29(日)

冬の展示〈文学の世界-文学作品から生まれた版画〉 1/1(木)-3/29(日)  
 多くの文人たちと交流のあった棟方志功は文学を題材にした作品を数多く制作しています。  
 幻想的な古典や物語から生まれたもの、詩や和歌を文字まで彫り込んだもの、  
 また小説の挿絵など、棟方版画の文学の世界をご覧ください。  
 主な展示作品:善知鳥版画巻、夢心鯉魚、雨ニモ負ケズ版画柵、流離抄、鍵板画欄など。

個展、グループ展、ライブ、芝居、ワークショップ etc。  
 冬の空間実験室で活動したい方、大募集中!  
 詳細はお問い合わせください。 お問い合わせ先→ kukan06@jomon.ne.jp  
 090-9423-1009

企画展5〈謎解き・美術を読む〉 1/10(土)-3/22(日)  
 美術作品は、表面上の美しさを楽しむのはもちろん、  
 その裏側にある物語を知ること大切です。 ※併設〈津軽の歴史展〉  
 屏風などの絵、また書や印章に隠された物語の絵解き・謎解きを試みます。

アオコン4 12/25(木)-1/25(日) 「壱萬式千円」展 2/1(日)-22(日) harappa部活動成果展 3/1(日)-29(日)

コレクション展III 〈花鳥風月の世界〉 ~1/18(日) コレクション展IV〈新収蔵品展〉 1/24(土)-4/19(日)  
 企画展〈生誕百年記念 佐々木泰南〜書の魅力〜〉  
 八戸出身で、現代書の世界に新境地を開いたといわれる佐々木泰南(1909-1998)。  
 泰南の生誕100年を記念し、市所蔵品50点により泰南の書の魅力を紹介します。 3/20(金)~4/19(日)

青森県立美術館〈小島一郎-北を撮る-〉展の《ICANOFによる 黙示録的最終章》 1/10(土)-3/8(日)  
 ■ICANOF特別展示『小島一郎の北海道』-小島によるプリントだけが小島の写真だとすれば、放置された膨大な小島の北海道ネガとは何か。  
 北海道ネガを前にして、いかなる展示も不可能ではないか。だからこそICANOFは跳ぶ。そこがロドス島だからだ。  
 企画・監修:豊島重之(ICANOF)/映像編集:宮内昌慶・高沢利栄・米内安芸(ICANOF)/会場:青森県立美術館 展示室E (同展の入場券で観覧できます)  
 ■1/10オープニングトーク「撮る場所、生きる場所」(同館シアター:無料)  
 ゲスト:写真家露口啓二・写真家北島敬三・映像作家小原真史/進行:高橋しげみ・豊島重之

常設展=21名の作家による22の作品/常設展示ですので、すべての作品がいつまでもご覧いただけます。  
 アナ・ラウラ・アラエス、チェ・ジョンファ、フェデリコ・エレロ、キム・チャンギョム、栗林隆、ジム・ランビー、マイケル・リン、  
 森北伸、ホール・モリソン、ロン・ミュージク、マリール・ノイデッカー・オノ・ヨーコ、ハンス・オプ・デ・ベーク、ボッレ・セートル、  
 ジェニファー・スタインカンブ、スッドーホー、高橋匡太、椿昇、山極満博、山本修路  
 ●アートチャンネルトワダVol.8「アノニマス・カワード」詳細はホームページをご覧ください。■展覧会=2/21(土)-3/8(日)  
 〈アノニマス・カワード・アワード〉平面作品を-匿名-を条件に公募・展示します ■作品募集期間=2008/12/1(月)-2009/1/31(土)  
 〈アーティストトーク〉 2/14(土)15:00- /参加費500円程度(お茶代)/会場:ビルゼン(十和田市東三番町1-47)/当日貸切となります

特別企画展「寺山修司とアメリカ」  
 -展示構成-  
 1:少年・寺山修司が出会った「アメリカ」  
 2:アメリカ前衛演劇視察  
 3:「毛皮のマリー」ニューヨーク公演  
 4:アメリカ各地の映画祭で活躍  
 5:「奴婢訓」アメリカを制覇す!

第8回鷹山賞児童作品展 館内整備のため臨時休館 1/28(月)-2/6(金) 常設展〈鷹山宇一の世界展〉 2/7(土)-3/31(火)  
 第8回地球環境世界児童画 コンテスト優秀作品展 -1/25(日)

①青森県立美術館

青森市安田字近野185  
<http://www.aomori-museum.jp/>  
 017-783-3000

②青森県立郷土館

青森市本町2丁目8-14  
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan>  
 017-777-1585

③国際芸術  
センター青森

青森市合子沢字山崎152-6  
<http://www.acac-aomori.jp/>  
 017-764-5200

④棟方志功記念館

青森市松原2丁目1-2  
<http://www.lantecweb.net/shikokan/>  
 017-777-4567

⑤ARTizan  
空間実験室

青森市古川2丁目19-18  
<http://artizan.fromc.jp/spacelab/>

⑥弘前市立博物館

弘前市下白銀町1-6 弘前公園内  
<http://www.hi-it.net/~hakubutsu/>  
 0172-35-0700

⑦NPO法人harappa

弘前市土手町112  
<http://harappa-h.org>  
 0172-31-0195

⑧八戸市美術館

八戸市大字番町10-4  
<http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum/>  
 0178-45-8338

⑨ICANOF

<http://www.hi-net.ne.jp/icanof>  
 0178-45-9247

⑩十和田市現代美術館

十和田市西二番町10-9  
<http://www.city.towada.lg.jp/artstowada>  
 0176-20-1127

⑪寺山修司記念館

三沢市大字三沢字津代平116-2955  
<http://shuji-museum.misawasi.com>  
 0176-59-3434

⑫鷹山宇一記念美術館

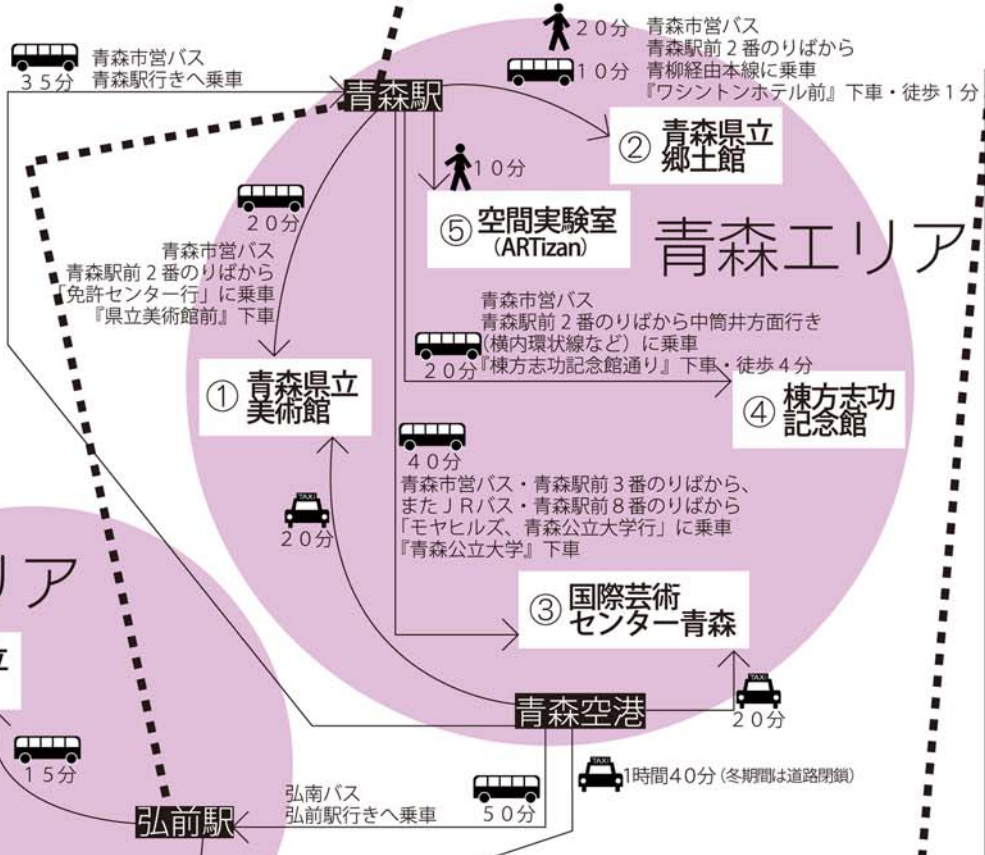
上北郡七戸町字荒熊内67-94  
[http://www1.town.shichinohe.aomori.jp/sightseeing/spot\\_takayama](http://www1.town.shichinohe.aomori.jp/sightseeing/spot_takayama)  
 0176-62-5858



弘前エリア



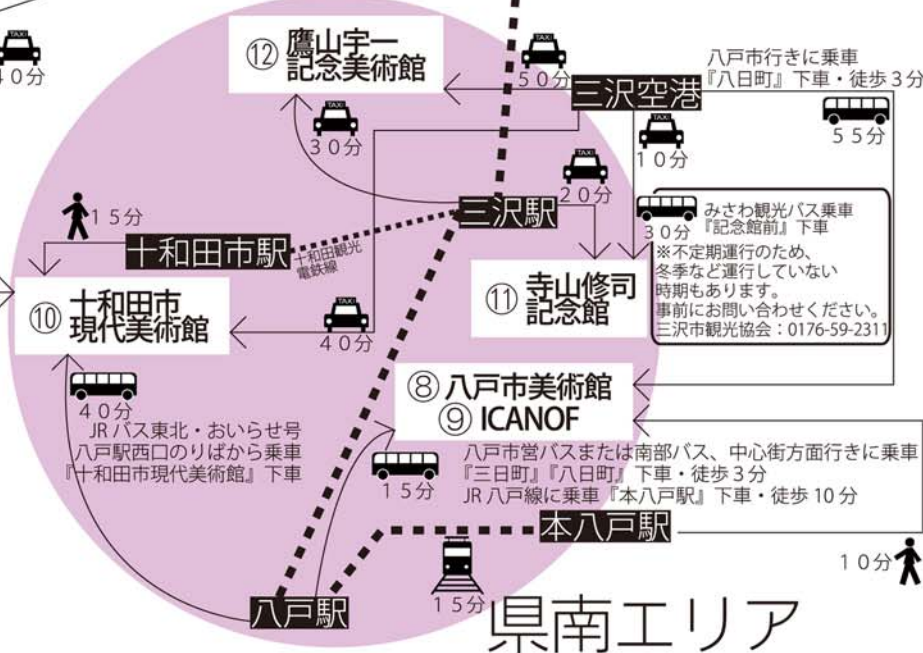
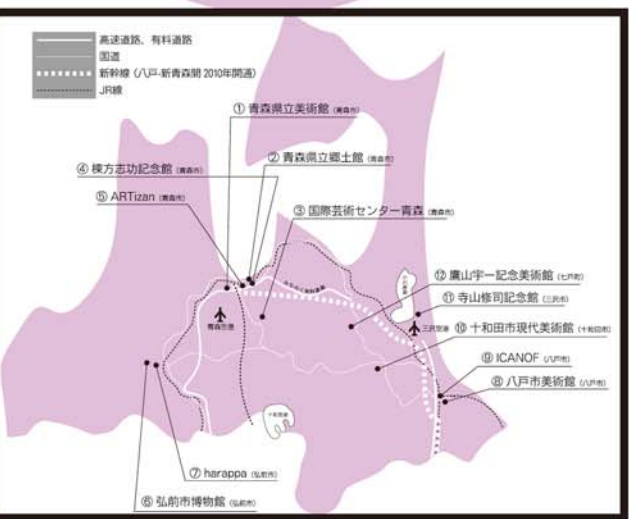
青森エリア



-冬のおもりサンポの心得-

冬の青森は積雪や荒天、路面凍結のため、各交通機関に遅れや急な運休が発生することがあります。また山岳地帯は冬季通行止めになる道路もあります。雪道の運転はタイヤチェーンまたは冬用のタイヤが必須です、時間に余裕を持ってお出かけ下さい。交通や気象情報は事前に各機関にお問い合わせ下さい。

- ・日本道路交通情報センター青森情報 017-777-5555
- ・JR東日本青森支店 017-734-6734
- ・青森空港 017-739-2000
- ・三沢空港 0176-53-7500
- ・あomorい交通ナビ <http://www.aomori-kotsu-navi.jp/>
- ・青森みち情報 <http://www.kotsu-aomori.com/>
- ・日本気象協会 <http://tenki.jp/>



県南エリア

キリトリ

上のキリトリ線から切り取って、3個目のスタンプを押した施設にご提出下さい。また提出の際下記の「年齢、性別、お住まい」のアンケートにご協力下さい。

年齢 (10代以下、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上)  
性別 (男性・女性)  
お住まい (市町村名)

3つ集めるとプレゼントあり!

アンケート

この冊子に登場する青森県内アート関連施設を3つめくってスタンプを集めると、ステキな景品をさしあげます。

団体によっては、展覧会などを行っていない時期もあります。また特別なイベントや出張展などではスタンプがございませんので、ご了承下さい。

スタンプが置いてある場所がわからない場合、各館・各施設の受付などでお声がけ下さい。

スタンプが3つあったらアンケートをご記入の上、(性別・年代・お住まい) その「3つ目のスタンプを押した施設」の受付にお申し出下さい。記念品と交換いたします。

1 2 3



# Ambitious

アート関係者によるリレー式寄稿。青森のアートの周辺への展望、ネットワークプロジェクトに期待することなどをお話しいたします。

青森県内12地域のアート活動の拠点となる「館」が参加団体となり、連携をとる《ネットワークプロジェクト》を研究会として始めたと言う。そんな羨むような環境が青森に整備されたことを告げる、エリアマップと催事情報満載の本紙『Stroller』が届けられた。空港で車を借り、青森アートシーンを求めて散策するにはまたとない便利な情報満載のフリーペーパーの創刊。アートを求めてStrollする身の一人として、久しぶりにまた改めて時間を作り、アート散歩を口実に青森にドライブに行ってみようという気にもなる。4年越しで実現したと聞くネットワークプロジェクトの取り組みは、情報交換を伴う参加館相互の励みになるだけじゃなく、僕のような他地域の者にも、違った意味で作用しネットワークされていく。マネジメントの現場は「人・物・金・時間・情報」の組上げだとすれば、「情報」をもたらすネットワークが新たな何かを生み出すことは間違いないだろう。途に就いたばかりの活動が、持続されさらなる活性化を促し、全体を盛り上げるような良き刺激となることを期待せずにはいられない。

森 司（もり・つかさ）／水戸芸術館現代美術センター主任学芸員

## 編集 後記

「どういう経緯でアートに関わるようになったのですか？」

何度となく、このように問いかられる。そのつど、自分の記憶の中でそれっほい出来事を引っ張り出して答えているが、ときとして、突然「あんなこともあったな」と思い出すことがあったりして、その答えは必ずしも一定しない。

直接のきっかけは、青森に来てからのことだったとしても、それまでの過程は、意識していなかったこともあり、思い出そうとすると、走馬灯と言うか、脈絡のない断章が連なる夢のように、どこかぼやけたものになってしまう。

記憶があいまいなのは自己嫌悪の対象だが、視点を変えれば、アートという、どこかぼんやりした概念には、いろいろな物事がつながってくる可能性があるし、実際につながってきたということでもある。いや、そういうさまざまな物事のいたるところに、アートという概念を練り込むことができるのだろう。

とはいえ、自分が経験することにアートという概念を意識して結びつける必要はないし、それだけでは、自分に何ももたらさないだろう。重要なのは、人それぞれに何と出会い、どういう刺激を受けたり与えたりするか、ということだと思う。

ただ、アートと認識される物事が、そういう強い刺激を誘発するような縁になるのではないか、という期待はある。（お）

### <あおもり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会>

暮らしの中で気軽にアートに親しめる環境づくりとともに、地域の芸術拠点の活性化を図るため、県内の美術館、博物館、アート NPO 等が相互に連携して地域の芸術振興に取り組み、施策（プロジェクト）を研究するとともに、パイロット的に事業展開していくものとして 2008 年 3 月に発足しました。

-現在の参加団体-	青森県立美術館	ARTizan／空間実験室	ICANOF
	青森県立郷土館	弘前市立博物館	十和田市現代美術館
	国際芸術センター青森	NPO 法人 harappa	寺山修司記念館
	棟方志功記念館	八戸市美術館	鷹山宇一記念美術館

『Aomori Art Stroller / あおもりアート散歩人（サンボビト）』は同研究会が作成するフリーペーパー。各アートスペースのプログラムを相互に結びつけ、情報発信することで、アートの楽しさを伝えていくとともに、新しい楽しみ方を提案していく「コミュニケーションの場」となっていくことを目指しています。